

高津区試合規則

2022年2月20日

★公認野球規則および全日本軟式野球連盟の競技者必携と、次の各号に定める川崎市少年野球連盟の「試合規定（内規）」を適用する。

（1）試合時間およびイニング

- イ. 試合開始の「プレイ」宣告後、1時間30分を経過したらそのイニングを最終回とする。
- ロ. 試合回数は6イニングとする。6回を完了時、または時間満了時に同点の場合は、特別延長戦を行い、決着がつかない場合は、抽選とする。
- ハ. ダブルヘッダーについては、1 試合目の試合終了後30分後に2 試合目を開始とする。ただし、両チームの監督の同意が得られれば、1 試合目の終了後30分以内に2 試合目を開始することもある。

（2）タイブレーク方式（特別延長戦）

継続打順とし、前回の最終打者を1 塁走者とし、その前の打者を2 塁走者とする。すなわち無死1、2 塁の状態にして1 イニング行い、得点の多いチームを勝ちとする。なお、勝敗が決しない場合は、さらに継続打順で2 イニングまで繰り返すこととする。それでも勝敗が決しない場合には、抽選を行う。

（3）得点差によるコールドゲームは採用する。

- ・3回以降10点差
- ・5回以降 7点差 （決勝戦は5回以降 7点差のみ）

（4）試合の成立と再試合

試合が天候等によって続行不可能となった場合の処置は以下の通りとする。

4回または1時間を終了している場合は、成立試合とする。

天候等により、成立試合とならなかった場合には、再試合とする。（継続試合ではない）

（5）特別グラウンドルール

- ・審判団は、試合球場特有の「特別グラウンドルール」を確認し、試合開始前に両チームに周知し、これを適用することができる。
- ・ボールデッドは、ルールに則った方法で行う。天候などの関係で、外野やサイドにネットを敷かないこともあるが、その場合、ボールデッドラインはネットがあった場所を基準とする。（ネットがないからフリーではない）

（6）ベンチ内における規則

- ・登録され、ユニフォームを着用した選手（28～30番以外）【主将は10番】は計20名以内。
- ・登録され、選手と同様のユニフォームを着用した監督（30番）・コーチ（29番・28番）は計3名。

- ・チーム代表者・スコアラー・マネージャーは計3名以内とし、チームの帽子をかぶること。また、ユニフォーム姿を禁止する（上下ともユニフォームでないこと）。
- ・公認のスポーツトレーナーの資格を有するものは、別にベンチに入ることができる。
※夏期においては、その限りではない。（熱中症対策で、保護者の手伝いもあり得る）
※また、ベンチに入るものは、選手、スタッフ問わず必ずスポーツ保険等に加入していること。
- ・ベンチの中での電子機器（携帯電話・パソコンなど）の持ち込み、使用を禁止する（スマートフォンをタイマーとして使用することは不可）。電子スコア記録用としての電子機器も不可（川少連が不可としている）。
- ・メガホンは、1個に限り使用を認める。
※規則が守られない場合は、審判団はベンチからの退席を命じることもある。

（7）シートノックについて

シートノックは5分間とし、後攻チームから行う。ノッカーは選手と同一のユニフォームを着用した監督またはコーチとする。天候・運営上、シートノックをしないで試合を開始することがある。
※ベンチ前でのサイドノックは禁止とする。

（※多摩川の球場はベンチ前も含め球場として狭いため。また、学校のグラウンドも同様に禁止。）

（8）トスについて

次の試合を行うチームは、前の試合の1時間経過時または3回終了時までにはメンバー表を提出し、名簿との照合ののち、球審立ち合いのもと、攻守を決定する。また、第1試合は、試合開始予定30分前に攻守を決定する。

トスの際、監督がユニフォーム姿で立ち合い、キャッチャー、サブキャッチャーもプロテクターなどを着用した状態にて立ち合うこととする。ファウルカップは持参でも構わない。

ただし、メンバー表5枚は、多摩川（または試合会場）に到着後速やかに、本部席に提出すること。

※自チームの前の試合がコールドゲームになる等、試合開始時間が早まった場合のことも想定して行動してください。

※トスを行う旨等を本部から呼びに行かないので、時間や試合状況を見て判断すること。

（9）ブルペンの使用について（事前、試合中）

次の試合のバッテリーは、トス終了後、グラウンド内ブルペンで投球練習をすることができる。また、監督をはじめ大人が立ち合うことは原則認めない。ただし、試合前のベンチ入りの時から試合開始までの間は、コーチによるブルペン捕手を認める。

試合中、ブルペンにおいて投球練習（キャッチボール）ができるのは、現在の投手か、次回以降登板が予定されている投手のみである。※交代する野手のアップ場所ではない。

※キャッチャーは、マスクなどをグラウンド内に置いて投球練習をしてはならない。また、座って投球練習をする場合は、マスクを必ずかぶること。

(10) 用具・装具・服装について

- ・試合球は、J号とする。(大会は本部で用意、リーグ戦は各チームで2球ずつを用意する。)
- ・バットは、JSBBのマークの付いた公認のものを使用すること。

・バットについては、後付けの加工・改造は認めない。テープの巻替えは、加工・改造にあたらな
いが、何重にも巻いて第2のコブを作ったり、凸凹のあるテープを巻き付けたりすることは認められ
ない。

- ・捕手は、連盟公認(JSBBのマーク)のマスク・レガース・プロテクター・ヘルメットを使用す
ること。また、危険防止のためファウルカップを着用すること。(投球練習の際も着用すること)
→ただし、捕手の面(マスク)については「SG」マークが付与されたものを使用すること。
- ・打者、走者およびランナーコーチ、ボールボーイは、公認のヘルメットを着用すること。
- ・打者、走者、野手は、リストバンドの着用を禁止する。(ただし怪我をしている場合を除く。
テーピングなども含め、トスの時に審判団に申告し、当該選手を同行し確認を求めること。)
なお、投手は怪我の場合等を問わずリストバンド等の着用は禁止。(野球規則6・02(c)(7))
- ・金属製のスパイクは、使用しないこと。(ただし中学生は、使用可とする)
- ・ユニフォームおよびアンダーソックスについては、チーム内で統一すること(シューズは統一しな
くてもよい)。

「チーム内」とは、選手、コーチ陣(30、29、28番)のことである。

「統一」とは、色、形、デザインなど、全てである。

※幅裾の広い、ストレートタイプのユニフォームは、使用を禁止する。

※左袖に県名を必ず入れること。他のものをつけることはできない。

(11) 野球規則について(特記事項のみ掲載)

- ・試合中、監督が審判員に異議を申し立てることは禁止する。ただし、ルール上の説明を求める場
合は構わない。監督が不在の時は、それに準ずる者が行うものとする。
→監督がいるベンチにおいて、それ以外の者が審判員に説明を求めてはならない。
- ・規則5・01(d)【原注】の前段は採用しない。したがって、投手の守備位置の交代は自由であ
る。
- ・規則6・02(c) 投手の禁止事項のうち、「(4)ボールに異物をつけること」・「(5)どんな方法で
あってもボールに傷をつけること」だけを採用する。
- ・投手(小学生)の変化球は禁止する。(競技者必携〈3OP〉16、学童野球に関する事項を参
照)
→変化球に対しては、ボールを宣告し、注意を与える。それでも続く場合は、投手を代えるよう
審判員から通達する。それに対して、不服申し立てをすることはできない。
(※昨今、自然に変化をしてしまう投手が多い。投げ方の指導を子どもに合わせて行うよう努
める。)

(12) 学童野球におけるルールについて

打者走者の1塁へのヘッドスライディングを禁止する。(選手の安全面を考慮して)

グローブでの指出しは認めない。(選手の安全面を考慮して)

(☆全日本学童上部大会、日ハム新人戦川崎市大会＝野球協会主催大会ではこれは該当しない)

(13) 移動型ベースについて

ベースが移動した場合は、ベースのあった地点にいればベースに触れているものとみなす。

注 意 事 項

(1) ボールの処理

ファウルボールが打たれた場合は、1塁側のものは1塁側ベンチ、3塁側のものは3塁側ベンチ、本塁後方のものは攻撃側で処理する。(後方のボールを取り合いにならないようにする。)

(※雨天時は、ボールの円滑な処理のために、ボールボーイがグローブを用意し、ボールを転がさず、ボールボーイに送球してもらうこと)

攻守交代の時は、ボールを投手板近くに置いて交代する。ただし、天候不順の場合は審判員に渡す。

(2) 試合のスピードアップについて

①投手の準備投球は、試合開始の表裏、捕手を相手に5球までとし、次回から3球までとする。

※2019年度より野球規則改正が行われ、5.07bにおいて、「1分間」の準備投球に関する文言が削除された。

②試合中の野手間のボール回しを禁止する。

③攻守交代は、駆け足で行うこと。

④打者は、速やかに打席に入り、打撃姿勢をとる。

⑤打者は、打席を外してサインを見ることを禁止する。

⑥監督は、ピンチの時以外は、投手を交代する時を除いて、投手のところへ行くことは許されない。

なお、守備側の選手をベンチに呼び寄せることを禁止する。

⑦投球を受けた捕手は、その場から速やかに送球すること。

⑧次打者、ランナーコーチは円陣に入らず、速やかにコーチャーボックスへ向かうこと。

⑨無用と思われるけん制を行わない。(場合によっては、遅延行為としてボークとなる)

(3) タイムについて

①守備側のタイムの制限は、6イニング3回までとする。(タイブレークの場合、2イニングで1回)

②攻撃側のタイムの制限は、6イニング3回までとする。(タイブレークの場合、2イニングで1回)

③監督タイムの制限は、6イニングで3回までとする。(タイブレークの場合、2イニングで1回)

④監督が、1イニングに2度、同一投手のところに入った場合、投手を変えなくてはならない。

※守備タイムと監督タイムの違いについて理解しておくこと

(4) その他の注意事項

①バッターボックス以外では、危険防止のためバットの素振りをしないこと。

②試合会場は開始と同時に封鎖し、関係者以外の入場を禁止する。喫煙他無用の入場を禁止する。

③球場周辺・道路等では、バット・ボールを使う練習をしてはならない。

④開会式・閉会式に出場するチームは、プラカードを持って行進をすること。チームフラッグは、後方に飾る。 ※プラカードは順手で持ち、ホームベース上では本部側にプラカードを向ける。

⑤自転車の駐輪は、他の通行を妨げないように注意すること。

⑥ごみ・空き缶・空き瓶等は、各チームが責任をもって持ち帰ること。

⑦各チームから登録審判員を1名必ず出すこと。(トーナメント大会、リーグ戦問わず)

⑧青少年育成上、監督、コーチ、スタッフ、ベンチ外問わず暴言に類するものを発することを禁止す

- る。それらの行為が見られた場合は、即刻、退場を申し渡すものとする。(自チームであっても)
- ⑨アップグラウンドの使用(北見方球場)に関しては、次の試合チームを優先とする。
- ⑩試合後のグラウンド整備は、試合していたチームが行う(※その際、ハーフパンツ、サンダルなど服装には留意すること)。また、最終試合の両チームは用具の後片付けをする。
- ⑪★朝のグラウンド設営は1試合目チーム他、チームスタッフ(1名を除き全ての大人)、片付けは、最終試合のチームスタッフ(全ての大人)、が連盟スタッフと協力して行う。
- ⑫通路を渡る時、横断歩道を速やかに渡ること。子どもたちの通行には、大人が責任をもって立ち合い、または指示を出すこととし、安全面に十分留意すること。同時に、大人の方々もルールを必ず守っていただくこととする。
- ⑬登録用紙(試合前のメンバー表ではない)の書き方の統一。選手の守備位置を記載する欄は、「投」「捕」「一」「二」「三」「遊」「左」「中」「右」とし、それ以外を「内」「外」とする。(形式上の統一)
- ⑭2019年度より、ネクストバッターは、スタンディングの姿勢で待つこと。ただし、バットを振ってはならない。
- ⑮2019年度より、投手の投球制限が行われた。1人の投手は1日70球以内と投球できる。70球目を投じた打者が打撃を完了するか、又は攻守交代時まで投球できる。
※4年生以下は60球以内の投球制限とする。(2022年度より)
※投数については、ネット裏で控え審判がカウントする。
- ⑯2023年度より、ホームベースのサイズを一般サイズに変更する。それに伴ってバッターボックスの規格も変更される。(※詳細は、全軟連HP参照)そのため、2022年度は移行期間とし、シーズン後をめぐりにベースの変更をする。

※お願い

試合規則、注意事項に関しては、監督だけではなく、チームに関わる大人、子ども、全てに通達し、徹底を図ることとする。